

# 第3次札幌市生涯学習推進構想 (令和6年度実施報告)

## 札幌市教育委員会

### はじめに

札幌市においては、時代の変化等に対応した生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を整理し、関連する施策を総合的・計画的・体系的に進めていくことを目的として、平成29年(2017年)3月に第3次札幌市生涯学習推進構想を策定しました。

本計画では、関連事業の実施状況について、内部委員会である「札幌市生涯学習総合推進本部」が把握し、構想の推進に必要な事項の検討調整を行うとともに、毎年度ホームページ等で適宜公表することとしています。

### 基本施策ごとの実施状況

今回の実施報告では、これまでに調査した関連事業を中心に、令和6年度の実施結果と、今後の取組の方向性を取りまとめました（事業総数226事業（再掲有り））。基本施策及び施策の方向性ごとに実施状況を総括し、それぞれ関連する事業例を取り上げています。

### 施策体系

基本施策		施策の方向性	施策の展開
基本 施 策 I	学びを生かして 未来を創造する 人づくり	1 各世代のニーズに応じた 学びの推進	1 乳幼児期からの育ちを支える学びの充実
			2 青少年期を育む学びの充実
			3 成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実
			4 高齢期を豊かに過ごす学びの充実
		2 多様な学習機会の提供	5 現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実
			6 スポーツ・健康に関する学びの充実
			7 文化芸術に関する学びの充実
			8 ふるさと札幌に関する学びの充実
		3 社会で活躍できる力を 育む学びの推進	9 就労へ向けた学びの充実
			10 まちの活力を高める学びの推進
基本 施 策 II	学びで育む つながりづくり	4 多世代が関わる学びを 通じた絆づくりの推進	11 学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実
			12 地域と学校が連携する取組の推進
		5 学びを地域づくりに生かす 取組の推進	13 地域づくりに向けた学びの推進
			14 学んだ成果を地域で生かす取組の充実
基本 施 策 III	学びを支える 環境づくり	6 いつでも学べる環境づくり	15 学び直しなどを支える環境づくり
			16 全ての人に開かれた学びの環境づくり
			17 情報提供・学習相談体制の充実
			18 学びを支える人材の発掘・紹介、出前講座の展開
		7 まちのどこでも学べる 環境づくり	19 学びをコーディネートする人材の育成・活用
			20 身近な地域で学びを深められる環境の整備
			21 時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化
			22 多様な主体が連携した学びの場づくり

**【参考】本構想の推進に係る成果指標について**

本構想では下記の成果指標を設定し、札幌市の生涯学習施策を推進してきました。

計画期間（平成29年度（2017年度）から概ね10年間）の中間年を経過した令和4年（2022年）に札幌市民を対象に行った「第3次札幌市生涯学習推進構想に係るアンケート調査」においては、成果指標としている「生涯学習をしている人の割合」が前回調査結果（平成27年（2015年））よりも良好な結果となり、令和7年（2025年）の目標値を上回りました（※令和7年度時点の指標は現在調査中です）。

一方、同じく成果指標としている「現在の学習や活動環境に満足している人の割合」は、前回調査からの微増にとどまっており、目標値までは開きがある状況です。理由としては「時間の不足」という主に個人的な理由に次いで、「身近な地域に学習や活動できる場が少ない」という理由が高い割合を占めていたことから、本構想で重点施策に掲げている「身近な地域で学びを深められる環境づくり」に引き続き取り組んでいくことが重要と考えます。

指標	平成27年 (2015年) 調査結果	令和4年 (2022年) 調査結果	令和7年 (2025年) 目標	令和7年 (2025年) 調査結果
生涯学習をしている人の割合	58.6%	68.1%	65.0%	
生涯学習をしている人の中で、現在の学習や活動の環境に満足している人の割合	55.4%	57.2%	70.0%	現在調査中

## 基本施策Ⅰ 学びを生かして未来を創造する人づくり

人口減少・少子化の深刻化、地域コミュニティ・交流の希薄化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化の進展をはじめとした社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化する課題を、市民一人ひとりが解決していく力を養っていくことが求められている。

基本施策Ⅰにおいては、個人の自立と共生に向けた多様な学びの機会の提供をさらに進めるとともに、学んだ成果を生かし、主体的に社会に参画し、活躍できるよう支援するため、関連事業として計155事業（再掲含む）を実施した。特に、重点施策である「施策の展開10 まちの活力を高める学びの推進」の主要事業である「さっぽろ市民カレッジ」を中心に、それぞれのライフスタイルや関心事に合わせた各種取組により、市民の主体的な学習活動を推進した。

### 《施策の方向性Ⅰ 各世代のニーズに応じた学びの推進》

#### 【今年度の取組結果】

勤労初妊婦等を対象にした育児等と勤労の両立を支援する情報提供の実施するとともに、子どもの体験活動の場や動物園での教育普及事業など、乳幼児期から青少年期における多様な支援や学びを提供した。

また、ひきこもりやニート等の困難を抱える若者に対し、社会体験の機会を創出し、その社会参加を促進した。高齢者に対しては、介護予防や健康維持に関する事業を展開し、生涯にわたる学びと社会参加を支援するなど、各世代の市民のライフステージや多様なニーズに対応した事業を実施した。

#### 【今後に向けて】

社会の多様化に伴い、市民の学びのニーズも変化していることから、引き続き、世代や地域の特性などを踏まえ市民ニーズに即した事業を展開していくことが必要である。

### ○施策の展開

#### 1 乳幼児期からの育ちを支える学びの充実 16事業

##### 〔事業例〕ワーキングマタニティスクール

勤労初妊婦とその配偶者を対象に、妊娠期の健康管理や育児に関する正しい知識の普及・啓発と情報提供等を行い、妊娠・出産・育児と就労の両立を支援した。

プログラム内容の一部をオンデマンド配信することで開催方法の効率化を図る一方、会場では先輩パパママの講話や育児実習を充実させるなどにより、令和6年度は6回の教室を実施し、377人（うち、夫の参加者176人）が参加した。

#### 2 青少年期を育む学びの充実 26事業

##### 〔事業例〕子どもの体験活動の場支援事業

旧真駒内緑小学校跡施設「まこまる」において、プレーパークや昔遊びなど、多様な体験機会を子どもに提供する子どもの体験活動の場「C o M

ドリ」の運営を支援した。令和6年度には205回（プレーパーク165回、体験プログラム40回）実施し、延べ31,079人が来場した。

#### [事業例] 円山動物園教育普及事業

小・中学生を対象に、環境教育や動物園の役割、飼育員・動物園獣医の職務について学ぶ講座等を200回実施し、10,203人が参加した。

### 3 成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実 13事業

#### [事業例] 社会体験機会創出事業

ひきこもりやニート等困難を有する若者の職場体験やボランティア体験等の受入先となる企業の開拓等を実施。専任の企業開拓員が企業等を訪問し、若者の職業体験を受け入れてもらえるよう積極的な勧誘活動を行うことで、令和6年度は48の協力企業・団体等を開拓し、困難を有する若者延べ858人に社会体験機会を提供した。

### 4 高齢期を豊かに過ごす学びの充実 12事業

#### [事業例] 介護サポートポイント事業

高齢者が社会参加を通じ、自ら介護予防に取り組むため、介護サポートの登録、受け入れ施設の指定を実施した。令和6年度は介護サポートを1,710人登録、受け入れ施設を246施設指定した。

#### [事業例] 健康教育事業

生活習慣病の予防その他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、自分の健康は自分で守るという意識を高め、健康の保持増進に資することを目的とした健康教育を行った。令和6年度は866回実施し、延べ40,776人が参加した。

## «施策の方向性2 多様な学習機会の提供»

### 【今年度の取組結果】

社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化する課題に対応するための様々な学習機会の提供に取り組んだ。

障がい者スポーツや文化芸術の普及に関する事業などを展開し、多様な学習機会を提供した。また、今後もさらに高まる防災リスクへの備えとして、区職員、施設職員及び地域住民の3者を対象にした避難所運営研修を実施した。

### 【今後に向けて】

多くの市民が主体的に参加できるよう、スポーツや健康、文化・芸術など生涯学習の入り口となるような親しみやすい分野の学びを引き続き提供していくことに加え、社会や地域の課題を解決する力を身に付けられる学びの機会も充実させていく必要がある。

### ○施策の展開

#### 5 現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実 21事業

##### 〔事業例〕避難場所運営研修

基幹避難所となる施設を会場に、区職員、施設職員及び地域住民の3者を対象とし、避難所運営の座学や施設・設備の確認、避難所運営ゲーム（HUG）等を実施し、災害時の避難場所開設の的確な初動対応と基本的行動の確認等を行った。受講者の防災意識と災害対応能力向上を図ることを目的に、令和6年度も87回実施し、1,602人が参加した。

#### 6 スポーツ・健康に関する学びの充実 19事業

##### 〔事業例〕地域における障がい者スポーツ普及促進事業

障がい者スポーツの普及促進を図るため、さまざまな障がい者スポーツの体験会を実施した。体験会の参加者数は目標数の3,000人を大きく超える12,375人となった。

#### 7 文化芸術に関する学びの充実 21事業

##### 〔事業例〕さっぽろアートステージ事業

文化活動の担い手育成を図るために、演劇や音楽、美術などの様々なアート系イベントを開催し、文化芸術活動に触れる機会や発表の場を創出した。舞台芸術部門・音楽部門・学生音楽部門・美術部門の4部門についてコロナ禍以前のように全て実地開催するとともに、20周年記念企画としてダンス部門を新設し、より多くの市民が気軽に文化芸術に親しむ機会を設け、計608,151人が来場した。

#### 8 ふるさと札幌に関する学びの充実 9事業

##### 〔事業例〕地域学校協働活動推進事業

子どもたちを対象に地域の力を生かした多様な学びや体験の機会を提供するとともに、活動を通じて地域と学校の持続可能な連携・協働の体制づくりを支援し、地域全体で子どもを育てる環境を醸成した。令和6年度は48校44地域学校協働本部にて子どもたちに学びや体験の機会等を提供し、

子どもの年間延べ参加者数が47,000人を超えるなど、過去最大の実施校数及び参加者数となった。

### 《施策の方向性3　社会で活躍できる力を育む学びの推進》

#### 【今年度の取組結果】

市民が主体的に社会に参加し、活躍することができるための学びの推進に取り組んだ。

知的障がいがある方を対象に介護職員初任者養成講座を実施し、資格取得と就労を支援した。また、就農を志す市民を対象に市民農業講座を実施し、新たな農業の担い手や農業応援団の育成を図った。これらを通じて、市民が生きがいをもって自立しながら活躍できる社会の実現に向け、社会的課題の解決など、まちの活力を高める学びを推進した。

#### 【今後に向けて】

社会の多様化に伴い就労や自主的な学びの需要が高まってきていることから、市民一人ひとりの状況や多様なニーズに応じた事業内容・支援メニューを提供していく必要がある。特に、困難を抱える方々への支援や、地域の活力を高めるための新たな分野の学びについては、今後も引き続ききめ細やかな対応が求められる。

### ○施策の展開

#### 9 就労へ向けた学びの充実 9事業

##### 〔事業例〕 知的障がい者等を対象とした介護職員初任者養成事業

知的障がいのある方を対象に介護職員初任者養成講座を実施し令和6年度は16名が参加、資格取得を支援した。また、本事業の周知や修了後の雇用先の確保及び雇用後の知的障がいのある方の雇用管理に関する情報提供を目的として、企業等を対象とした雇用促進セミナーを実施した。

#### 10 まちの活力を高める学びの推進 【重点施策】 9事業

##### 〔事業例〕 市民農業講座 さっぽろ農学校

就農を志す市民等を対象に、農業に関する知識や栽培技術の習得を通じ、新たな農業の担い手と農業応援団を育成することを目的とした講座を実施。令和6年度はさっぽろ農学校専修コース12名のほか、より就農や農業に強い関心がある方を対象にしたさっぽろ農学校特別専修コースを6名が受講した。

##### 〔事業例〕 さっぽろ市民カレッジ

第3次札幌市生涯学習推進構想の重点施策である施策の展開10「まちの活力を高める学びの推進」を念頭に、生涯学習センター等においてまちづくりを担う人材などを育成するための講座などを企画・実施した。令和6年度は207講座を開講し、3,829人が参加した。

## 基本施策Ⅱ 学びで育むつながりづくり

近年、高齢化・人口減少や自然災害、感染症の流行など様々な問題に直面する中で、人と人とのつながりの重要性が再認識されており、市民一人ひとりがお互いを信頼しながら地域づくりを行うことが求められている。

基本施策Ⅱにおいては、様々な場における多様な人々との学びやその成果を生かす取組や次世代の担い手の育成などを通じて、社会との関わりや新たなつながりを創り出し、地域をはじめとする様々な場においてコミュニティを築いていくために、関連事業として計29事業（再掲含む）を実施した。特に、重点施策である「施策の展開12 地域と学校が連携する取組の推進」を中心に、地域における学びの交流を通じたコミュニティの醸成に取り組んだ。

### 《施策の方向性4 多世代が関わる学びを通じた絆づくりの推進》

#### 【今年度の取組結果】

学びをきっかけとした人と人とのつながりづくりに寄与する取組を推進した。生涯学習センターの運営を通じて、サークル等に対して活動場所を提供するだけでなく、発表会やコンサートなど日頃の学習成果を発表し、サークル同士が交流を深められる場を創出した。また、学校図書館を地域へ開放し、ボランティアによる読み聞かせやイベントの実施により、世代や地域住民の交流を促し、地域コミュニティの形成と教育力の向上に貢献した。

#### 【今後に向けて】

人と人とのつながりを育むことが地域コミュニティや社会的なネットワークの醸成につながることから、引き続き、子ども、親・働く世代、高齢者など多様な世代が共に学び、人間関係を深められる場を提供していく必要がある。

### ○施策の展開

#### 11 学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実 7事業

##### 〔事業例〕生涯学習センター運営

市民（サークル）の自主的な活動及び交流の場を提供することを目的に、生涯学習センターを運営し、ホールや研修室等の各種貸室の貸出を行い、令和6年度は457,065人が利用した。また、日頃の学習成果学習活動の場所の提供を通してサークル等の活動場所を設けるだけでなく、サークル発表会（延べ72団体参加）やロビーコンサート（7団体参加）、ちえりあフェスティバル（7,021人来場）の開催など、学習成果の発表や、生涯学習関連団体同士の交流の場を創出した。

#### 12 地域と学校が連携する取組の推進 【重点施策】 7事業

##### 〔事業例〕地域の拠点としての学校図書館活用事業

学校図書館を拠点として、学校・家庭・地域が連携し、読書活動を通じて大人と子ども、大人相互の交流の場を広げ、地域の教育力の向上に役立てるため、学校図書館を地域へ開放した。令和6年度は計121校の小中学校（小120、中1）で開放事業を行い、運営には3,575名のボランティアが参加。読み聞かせや工作会などの行事を4,241回実施した。また、ボランティア向けの情報誌を3回発行し、各校の取組を共有した。

## 《施策の方向性5 学びを地域づくりに生かす取組の推進》

### 【今年度の取組結果】

市民の地域づくりへの主体的な参加意識を醸成し、市民が主役の活力あるまちづくりの促進に取り組んだ。

地域づくりの担い手となる市民に地域課題解決のための学びの機会を提供するため、大学で市民向け公開講座を実施した。また、地域団体と連携してまちづくり活動を行う学生団体に補助金を交付し、次世代を担う学生が行う、学んだ成果を地域で生かす活動を支援した。

### 【今後に向けて】

市民が学んだ成果を地域課題の解決に活用し、地域づくりや地域の活性化に還元できるような流れをつくりていくため、複雑化・多様化する地域課題とそれに基づく市民ニーズを的確に把握しながら、地域に関わる団体や組織がそれぞれの強みを生かして連携できるような支援や、市民が実際に地域づくりに関わる活動・体験ができる講座などを実施していく必要がある。

## ○施策の展開

### 13 地域づくりに向けた学びの推進 8事業

#### 〔事業例〕札幌市立大学の運営に対する支援

新たな知見の獲得に繋がる生涯学習の機会提供や健康寿命の延伸等をテーマに、生涯学習の振興、健康増進・福祉の向上、地域コミュニティの振興等に貢献する市民向け公開講座を54件開催した。

### 14 学んだ成果を地域で生かす取組の推進 7事業

#### 〔事業例〕さっぽろまちキャンパス共創事業（学生団体によるまちづくり活動推進事業）

学生の地元への愛着及び関心を高め、学生の力を生かした地域コミュニティの活性化を目指すため、地域団体と連携・協働してまちづくり活動を行う市内の学生団体（10団体）に対して補助金を交付し、活動を支援した。

### **基本施策Ⅲ 学びを支える環境づくり**

様々な理由から学習することに壁を感じていたり、学びたいという希望をかなえることが難しいといった市民に対し、生涯学習を行うきっかけが得られるよう、誰もが学べる場を整備していくことが求められている。

基本施策Ⅲにおいては、市民がいつでも・どこでも自由に学んだり、活動したりすることのできる環境づくりを進めるために、関連事業として計41事業（再掲含む）を実施した。特に重点施策である「施策の展開20 身近な地域で学びを深められる環境の整備」を中心に、身近な地域における学びや、市民自身が学びの場を創出できるような支援体制の充実に取り組んだ。

#### **《施策の方向性6 いつでも学べる環境づくり》**

##### **【今年度の取組結果】**

学びたい市民がいつでも学べる環境づくりの推進に取り組んだ。

結婚や出産等で一度職場を離れた未就業の歯科衛生士の復職を支援する取組を行ったほか、不登校児童生徒が主体的に社会参画を果たすための支援として、フリースクール等民間施設への助成を実施した。また、必要な情報にいつでも迅速にアクセスできる環境整備の取り組みとして、子育て情報に特化したホームページとスマートフォンアプリを開設や生涯学習センターにおける学習相談コーナーの運営といった市民の主体的な学びを支援する取組を行った。

##### **【今後に向けて】**

様々な境遇の人々が、様々なライフステージにおいて、学びたいと思ったときに学ぶことができる環境や機会を提供できるよう、引き続き充実を図っていく必要がある。

#### **○施策の展開**

##### **15 学び直しなどを支える環境づくり 4事業**

###### **[事業例] 未就業歯科衛生士復職支援事業**

慢性的な歯科衛生士不足の現状と歯科医療現場の窮状を踏まえ、歯科衛生士の資格を有しながらも、結婚・出産・育児・その他の事情により職場を離れた方々を対象に、復職に必要な知識・技能等を習得していただくための未就業歯科衛生士支援リカバリー研修セミナーを1回実施、9名が受講した。

##### **16 全ての人に開かれた学びの環境づくり 5事業**

###### **[事業例] 子どもの学びの環境づくり事業費**

不登校児童生徒の多様な学びの環境を整え、社会的自立を支援するため、令和6年度はフリースクール等民間施設12団体に対し、指導体制の整備や教材・体験活動等の充実などに必要な経費の一部を助成した。

##### **17 情報提供・学習相談体制の充実 6事業**

###### **[事業例] 子育て情報提供強化事業**

子育て家庭が必要な情報を入手し、自分に合ったサービスを利用できるよう、子育て情報に特化したホームページとスマートフォンアプリを開設

するとともに、年齢別、地域別などの個々の状況に合わせた子育て情報を発信し、令和6年度はアプリのダウンロード数（累計）が56,927件だった。

## 18 学びを支える人材の発掘・紹介、出前講座の展開 7事業 [事業例] 生涯学習センターにおける学習相談コーナーの運営

市民の多様な学習ニーズに対し、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師や、サークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。また、広報誌やSNS等でPRするなど、利用促進にも取り組み、令和6年度は14,196件の学習相談、212名の市民講師バンク登録があった。

### 《施策の方向性7 まちのどこでも学べる環境づくり》

#### 【今年度の取組結果】

市民自らの手による学びの場づくりや身近な地域で学びを深められる環境づくりに取り組んだ。

自身の経験や学んだ成果を活かし、ボランティアとして講座の企画から運営までを担う取り組みを支援した。また、中央図書館や青少年科学館の運営、市民が講師となって地域で学びを伝える「ご近所先生企画講座」を通じて身近で高度な学びを得られる環境を提供した。

#### 【今後に向けて】

生涯学習センターを中心に、各地域にある図書館やコミュニティ施設といった身近な場所で地域のニーズを踏まえた学びの機会を拡充していくとともに、多様な主体と連携を図り、それぞれの特性を生かしながら多様な学習環境を整えていくことが必要である。

### ○施策の展開

## 19 学びをコーディネートする人材の育成・活用 2事業

### [事業例] さっぽろ市民カレッジ（ちえりあ学習ボランティア）

さっぽろ市民カレッジの一環として、自身の経験や学んだ成果を生かして、講座内容の企画から運営を担う「ちえりあ学習ボランティア」による講座を15講座実施。ボランティア53人が関わったほか、講座は414人が受講した。

## 20 身近な地域で学びを深められる環境の整備 【重点施策】 10事業

### [事業例] 中央図書館の運営

札幌市の図書館施設の中心となる中央図書館における事業の運営及び施設の維持管理を行った。また、図書資料の充実、図書貸出・予約・返却、資料レファレンス、インターネットによる蔵書検索及び貸出予約などによる幅広い市民への図書館サービスの提供を行い、令和6年度の来館者数447,516人に対し、1,012,704冊の貸し出しを行った。

**21 時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化 3事業**

**[事業例] 青少年科学館運営**

青少年の科学に対する関心を高め、科学する心を培い、創造性豊かな青少年の育成を目的に、展示物やプラネタリウムを備えた青少年科学館を運営した。令和4年8月22日から休館した後、令和6年4月1日にリニューアルオープンし、令和6年度の来館者数は過去最多の594,748人となつた。

**22 多様な主体が連携した学びの場づくり 4事業**

**[事業例] ご近所先生企画講座**

学んだ成果を生かして活躍することを望む市民自らが講座を企画・運営する「ご近所先生企画講座」を、さっぽろ市民カレッジの一環として実施した。講座は各区民センターや地区図書館等の市内各地域で開催し、令和6年度には114講座を開講、1,407人が受講した。